

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 6月 6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071200549		
法人名	医療法人 海洋会		
事業所名	グループホーム ほんわかハウス		
所在地	福岡市西区大字千里字中原49-1 〒819-0374 (電話) 092-805-5658		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年5月28日	評定確定日	

## 【情報提供票より】(平成19年 4月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 7月 1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	24人	常勤 21人	非常勤 3人 常勤換算 22.6人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 2階建ての～ 本館1.2階 別館2階部分		
------	------------------------------	--	--

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000～41,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(家賃3ヵ月 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償還の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,270円程度	

## (4) 利用者の概要(4月 1日現在)

登録人数	26名	男性	5名	女性	21名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	8名	要介護4	6名		
要介護5	2名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.8歳	最低	71歳	最高	99歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	あおいクリニック・別府歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体であるクリニックの介護事業に対する取組みを反映させ、認知症の方が穏やかに生活できる場所を提供したいとの思いの中、開設されたホームである。ホーム内での勉強会への取組みやグループホーム協議会の研修に参加するなど、職員のスキルアップに熱心に取組まれている。また、現在の機能を維持していくような取組み、入居者個々の生活のペースを大切に、個人のプライバシーに配慮したさりげないケアが見受けられた。入居者一人ひとりの思いに寄り添い、生活歴、出来ること、出来そうなことを把握し、入居者の暮らしの視点にたったきめ細かい介護計画の作成と支援がなされている。ただしこの1年、職員の入替わりが多く、入居者との馴染みの関係の継続性の観点からも、職員の入替わりをできるだけ少なくするための体制作りへの取組みを期待する。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ミーティング時に外部評価結果を職員へ提示しての協議が行われている。前回の外部評価を受けて、地域交流を図る工夫や研修体制の強化に取組むなど具体的な改善が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティング時に外部評価の意義を説明し、外部評価内容を全職員にチェックしてもらうなどの取組みがある。今回外部評価内容を見直すことで、日常業務に追われる中、ケアにおける対応の仕方の再認識を図るなど、職員への気づきを生み出す結果に繋がっている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4、5、6)
	5月に第1回目の運営推進会議を開催したばかりであり、実質的な運営推進会議を活用した取組みはこれからである。運営推進会議が、地域交流の契機となることから、運営推進会議の充実を図るとともに、積極的に活用し質の向上へ取組んでほしい。また、運営推進会議の会議録の継続的な報告を通じて行政や地域包括支援センターへの働きかけを行い更なる連携に期待する。また運営推進会議を通じて地域における情報発信や認知症の理解など、地域への働きかけを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8、9)
	担当職員からの手紙による報告、面会時の声かけ、ホームたよりの発行や家族会開催時等を通じて意見や思いなどを表出していただくような取組みがあるが、家族会に参加出来なかった家族等に対する働きかけがやや消極的である。何でも気兼ねなく言い合える関係作りへの足がかりとして、無記名方式でのアンケートの実施など、家族等の思いや意見を汲み取り吸い上げるような取組みを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会の見学、敬老会への参加、ホームの畑で収穫した果物のおすそわけ、日々の散歩時の挨拶など、少しずつであるが入居者と地域の人々との交流を図るための取組みがすすんでいる。また、職員が地域へ入っていくことを意識し、敬老会でグループホームの理解を働きかける説明など、地域にホームがとけ込もうとする努力がみられる。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとなったことを受けて の、理念の再検討まではなされていないが、も ともとの理念が、地域の中での関係作りを重視 したものであり、職員は常に地域との関係作り を意識しながら業務に携わっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングにおいての事例検討の 際、理念を照らし合わせながら話し合うなど、 理念の浸透を図る取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	老人会の見学、敬老会への参加、ホームの畑 で収穫した果物のおすそわけ、日々の散歩時の 挨拶など、少しずつであるが入居者と地域の 人々との交流を図るための取組みがすすんで いる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	ミーティング時に外部評価の意義を説明し、 外部評価内容をチェックしてもらうなどの取 組みがある。前回の外部評価を受けて、地域交 流を図る工夫や研修体制の強化に取り組むなど 具体的な改善が見られる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年5月に第1回目の運営推進会議を開催したばかりであり、実質的な運営推進会議を活用した取組みはこれからである。		運営推進会議が、地域交流の契機となることから、運営推進会議の充実を図るとともに、積極的に活用し、質の向上へ取組んでほしい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時にその都度の問い合わせ等を行っており、運営推進会議の議事録の提出時に話しをするなどの取組みは行われているものの、運営推進会議が始まったばかりであり、行政担当者との連携への取組みは今後の課題である。		運営推進会議の会議録の継続的な報告を通じて行政や地域包括支援センターへの働きかけを行い更なる連携に期待する。また運営推進会議を通じて地域における情報発信や認知症の理解など、地域への働きかけを期待したい。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を通して職員の制度に対する理解を深める取組みがある。家族会開催時の説明や具体的に必要と思われるケースに対して個別に情報提供を行っているも、全ての家族に対しての説明や情報提供等の働きかけは、行われていない。		家族会に参加されなかった家族等に対しては、資料等の送付、ホームたよりや運営推進会議等を利用して広く情報を発信するなど、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるような支援を期待する。
4 理念を实践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当職員が、入居者の等身大の状況を手紙に書き報告している。また、家族等の面会時の声かけやその時々連絡による報告がある。2ヶ月に1度のホームたよりの発行や家族会時にも、入居者の暮らしぶりやホーム行事等のお知らせがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の声かけや家族会時等を通じて、意見や思いなどを表出していただくような取組みがあるが、家族会に参加出来なかった家族等に対する働きかけがやや消極的である。		何でも気兼ねなく言い合える関係作りへの足がかりとして、無記名方式でのアンケートの実施など、家族等の思いや意見を汲み取り吸い上げるような取組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代時は、顔なじみの職員がその場をフォローするなどの対応がある。新しく職員が入る時は、遊びに来たと紹介し、徐々に入居者と馴染みの関係を作るよう工夫している。職員の離職が多く、職員のメンタルケア等への取り組みがやや消極的である。		職員の入れ替わりを出来るだけ少なくするための、何らかの体制作りへの取り組みを期待する。
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関しては、何ら制限は設けていない。お花が好きな職員や畑作りが得意な職員には、係りとして園芸に携わってもらうなど、職員の趣味や特技に配慮した対応がある。また、職員の資質や経験を考慮して担当入居者を決めるなどの取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政の人権啓発研修へ参加する等、職員の人権意識を喚起する取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を職員に回して参加を募ったり、管理者から指名しての参加など、職員がまんべんなく外部研修へ参加出来るよう配慮している。また、ホーム全体の勉強会を月に1回、午前と午後で開催する等、全職員が勉強会に参加できるよう工夫している。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しており、協議会主催での勉強会や職員の交換研修、他のグループホームの見学などを通じて質の向上への取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に遊びに来てもらい、最小限の荷物でお泊り感覚で利用を開始してもらうことができる。1日に数回自宅を往復するなど、何時でも自宅に帰れるという安心感に繋げながらサービスに慣れてもらう工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の下ごしらえの方法や花の育て方、礼儀作法、昔の言葉や昔の制度など、日常の関りの場面において入居者から学ぼうとする取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で入居者の意向や思いを把握し、家族の面会時の声かけや担当職員からの手紙の送付などを通じて家族の思いや希望の把握に努めている。把握した内容はセンター方式の様式に記入するなど、職員間での情報共有への取り組みがある。		
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時の声かけやお手紙、日々の関りの中から、家族や入居者の意向の把握に努め介護計画に反映させている。他の職員の気づきや意見は、メールボックスを利用したり、申し送り時に情報を集め、カンファレンスを行うなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	入居者の状況により、1週間、3週間、1ヶ 月、3ヶ月、6ヶ月毎及び退院時などその時々 の変化に合わせて評価を行い、介護計画の見直し と再作成がある。また、全職員参加のカンファ レンスが毎月開催されている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	終末期の入居者で酸素吸入に対応したり、ご 自宅の見学に出かけたり、入居者の馴染みの場 所への外出を働きかけて出かけるなど、その 時々々の入居者の状況や希望に対して、柔軟な支 援がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホームとしての協力医より、定期的な往診が ある。入居者本人や家族の希望する医療機関 を優先しての受診であり、ホーム対応にて送迎 を行い、医療機関で家族と待ち合わせるなどの 支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	終末期における対応を契約時に説明し、入居 者の意志をふまえた上で、家族等の意向を書面 で得ている。状況の変化に伴い、その都度の家 族、主治医等をふまえた協議を行い、共有に努 めるなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	オムツやパットを別の表現に言い換えたり、 居室が直接外から見えないように暖簾を下 げたり、入居者の耳元でのさりげない声かけ・ 誘導を行うなど、プライバシーに配慮した対応 が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事をとるタイミングや食時にかかる時間、 食時の食べ方、日中の過ごし方、食後の過ごし 方など、入居者のペースを重視した柔軟な対応 が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	職員は和やかな雰囲気の中、入居者と一緒に 食事を取っていた。食材のつぎわけ、お箸を配 る、下膳、後片付け、野菜切りなど、入居者一人 ひとりの状況によって出来る事に関していた だくような取組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	入居者一人ひとりづつ、お湯を入れ替えてお り、好みの入浴剤の使用や好みの温度にて、く つろいだ入浴が出来る配慮がある。入浴時間 は、午後から22時まで入浴可能である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	夜間の戸締りの確認、食材のつぎわけ、お箸 を配る、下膳、後片付け、苑庭の収穫、洗濯物干 しや取り入れなど、入居者の出来る事や希望、 生活歴を把握したうえでの支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩やその時々入居者の希望に 添ってのスーパーやデパートへの外出、月に1 度の外食、入居者の生活歴を汲み取っての職員 からの働きかけによる外出など、入居者の希望 にそった外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠しており、ホーム出入口に優しい 音色のセンサーを設置し、入居者の様子を良く観察 し、外出傾向時には一緒に付き添うなどの対応 がある。職員数や入居者の状況により一次的 に施錠する際は記録に残し、開錠に向けて職員 間で協議するなど取り組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回の避難訓練の実施がある。非常時の移 動方法について勉強会で学んだり、避難訓練を 通して学ぶなど、誘導方法等を身につける取組 みがある。非常時は、敷地内にある併設施設の 協力が得られる体制である。		ホームの立地上難しいかとは思われるが、運 営推進会議時の継続的の願いや避難訓練時の 近隣住民の参加など、いざという時に地域の協 力体制が得られるような働きかけを今後も続 けて行ってほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	入居者により、自室のペットボトルに水分を準備 したり、食事の時の声かけなど、水分不足にな らないような配慮がある。食事摂取量を チェックし、検査結果と体重の増減から栄養状 態をおおよそ把握した上で、栄養士、主治医を 交えての協議を行うなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダには季節の花が咲き誇り、リビング には入居者が摘んできた野の花や植物がさり げなく生けてある。自然採光と自然の風を取 り入れ、光はレースのカーテンで調整するな ど、季節感を感じながらゆっくりと過ごすこ とができる空間作りへの工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇、家具、写真、植物、趣味の品 など、馴染みのものや使い慣れたものが持ち 込まれており、入居者の人柄が窺える居室 であった。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号